

により多く見られた。体型や上翅の斑紋は特徴的である。)

11. サツマヒメヒゲナガ *Monochamus* (s. str.) *subfasciatus meridianus* Hayashi, 1955 : 1♂, 1♀.
(大林・新里 (2006) では、原名亜種で記録されているが、上翅の斑紋は南九州亜種の特徴を示す。)
12. ニセビロウド *Acalolepta sejuncta sejuncta* (Bates, 1873) : 1♂.
13. ヤハズ *Uraecha bimaculata bimaculata* Thomson, 1864* : 3♂♂, 2♀♀.
14. コシキジマセミスジコブヒゲ *Rhodopina lewisii koshikijimana* Komiya, 1984 : 1♀. (甌島特産亜種。♂が採集出来なかったが、♀の触角も11節で、疑似12節は認められない。)
15. ヒトオビアラゲ *Rhopaloscelis unifasciatus* Blessig, 1873 : 1♂, 1♀.
16. アトモンマルケシ *Exocentrus lineatus* Bates, 1873 : 1♀.
17. シマトゲバ *Rondibilis insularis* (Hayashi, 1962)* : 2♀♀.
18. リウキュウルリボシ *Glenea* (s. str.) *chlorospila chlorospila* Gahan, 1897* : 6♂♂, 5♀♀.
19. シラホシ *Glenea* (s. str.) *relicta relicta* Pascoe, 1868 : 7♂♂, 5♀♀.

引用文献

- 森 一規, 1988. 鹿児島県産カミキリムシ分布表. SATSUMA, (100): 119-148.
大林延夫・新里達也 (編), 2006. 日本産カミキリムシ. 818 pp. 東海大学出版会.

(大林延夫 238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1334-444)

(森 一規 891-1305 鹿児島市宮之浦町 3391-37)

【短報】久米島からオキナワマメデオキノコムシの採集記録

日本産ハネカクシ科デオキノコムシ亜科に *Baeocera* 属 (マメデキノコムシ属) というグループがある。体が小さいというよりは丸っこいという形態の特徴から命名されたかと推察する。デオキノコムシはどれもこれも体の隆起が強く、全体として丸みを帯びている属が多いが、マメデオキノコムシ属はとくにその傾向が強い。

日本からはマメデオキノコムシ属は9種が知られる (Ogawa & Löbl, 2013)。うち、オキナワマメデオキノコムシ *B. caliginosa* Löbl, 1984 は沖縄本島、九州、台湾から記録があるが (保科, 2010; Löbl, 2012)、筆者は本種未記録の久米島より1個体を落ち葉ふるいにて採集したので、本稿にて報告する。

1♂, 久米島だるま岳, 19. iii. 2013, H. Hoshina leg.

菌類に集まるデオキノコムシの主要な採集方法はビーティングであるが、落ち葉ふるいも侮れない。立ち枯れの丸太にはアリが営巣することが多い琉球では、むしろ落ち葉ふるいの方が採集方法として効果的ともいえる。

引用文献

- 保科英人, 2010. 日本産デオキノコムシ類に関する追加知見。ねじればね, (127): 16-17.
Löbl, I., 2012. On Taiwanese species of *Baeocera* Erichson (Coleoptera: Staphylinidae: Scaphidiinae). Zoological Studies, 51: 118-130.
Ogawa, R. & I. Löbl, 2013. A revision of the genus *Baeocera* in Japan, with a new genus of the tribe Scaphisomatini (Coleoptera, Staphylinidae, Scaphidiinae). Zootaxa, 3652: 301-326.

(保科英人 910-8507 福井市文京 3-9-1 福井大学教育地域科学部)



「知られざる動物の世界 13 甲虫のなかま」

青木淳一 監訳 保科英人 訳

朝倉書店 116pp.

2013年5月20日発行 3,400円+税

本書は“World of Animal 25: Insects and Other Invertebrates” (Ken Preston-Mafham 2012年 Brown Bear Book Ltd) の訳本であり、本学会員のお二人が訳されている。迫力ある生態写真と共に23の科について解説が行われており、文章もで

きるだけ平易に書かれていることから、一般の方が甲虫を俯瞰するときには最適の本となっている。生態写真とともに解説されている生態学的トピックの中には、最近の研究で明らかにされた興味ある生態について書かれたものもあり、それらが平易に解説されているところも本書の魅力の1つである。あえて難を言えば、それらのトピックの根拠となる参考文献が示されていればより便利であったが、それは一般向けかつ訳本である本書に望むのは無理かも知れない。

(愛媛大学ミュージアム 吉富博之)